

キブツ運動の近況 (4)

J・アラジイ氏の手紙より

▼キブツの政治的社会的失望

▼イスラエル社会主義

▼キブツに対する攻撃

草刈善造 (編)

キブツの政治的社会的失望

この前の手紙の終りにふれた「問題」というのは、私のキブツも所属するアルツィ・キブツ連合内の人びとの間で感じられている或る不快なことである。非常な限界はあるが、私自身の印象と考察を述べよう。徹底的に述べるためには共に語るのがいつそうよいのだが……(そうしたものである)。前述の不

快さは政治的社会的失望と困惑に現われている。

その政治的不満は、ソビエトとその衛星国における社会主義実現の欺瞞に対する大きな失望から生まれている。われわれの中の多数の者はかつて徹底した社会主義教育を受けており、われわれのキブツのイデオロギーはそれと結びついている。こうして社会主義者、ユダヤ人、イスラエル人として、われわれは一九六七年以来、共産圏諸国の赤色反セム主

義、極端な反イスラエルキャンペーンによって、またその全体主義の確証によって深刻な困惑に直面させられている。また彼らの反対者に対する非合法的処罰が、われわれの間の多くの人たちの社会主義の信念を徐々に衰えさせている。しかし、他の人たちは、それこそマルキシストが失敗した事実なのだというが、人道的社会主義の理念そのものはやはり「妥当」である。

ところで、われわれマバム党(訳注・イスラエル左派労働党)の大会は来月行なわれる。協議事項は社会主義一般、およびイスラエル社会主義の進路の問題である。さて、キブツ生活の社会的部面そのものに何が起こったのか。人びとはその行動によって平等および共有の原理を犯しつつあり、これら主要な精神的価値の代わりに、多様な物質的価値を手に入れようとする欲望の増大が結果的に付随している。だんだん自己本位で、もっぱら家族的な傾向がわれわれの日常生活体制の中に現われてきた。もちろん、こうした状況については非常に自覚的なキブツニックたちは失望している。

その原因は何であろうか。こうしたことはすべて、特に西欧の豊かな消費社会の生活様

式がイスラエルやキブツにも滲透したために生じたのだと考えられる。また、多分、多数のキブツニックの心中にある前述の政治的失望が、その現象の出現を促進したのであろう。そして最後に、おそらく通常のキブツ・メンバーは、他のすべての人間と同様に、ある程度以上には克服できない社会的本能と特性をもっているというのであろう。

もうひとつの不愉快な面はよく知られている世代間のギャップである。この話に引返して詳細に報告する必要はないと思う。簡単に述べると、双方の側に相互に失望がある。そこで今回は一方の側だけについて強調したい。政策やイデオロギーからの若者たちの逃避、彼らが自己実現や高い生活水準を求めてキブツの家庭を去るに至るまでの努力、などはわれわれ（老人）自身の疑問や過失が影響してはいしないのか。私は影響していると思う。

結局、ではどういふことになるのか。キブツの生存にとっては、まったく危険はないと思う。なぜならば、現下の危機をわれわれは乗り越えるだろうから。最後に、食物・住居・教育および保険のような、必須の生活条件の平等と共有という主要原理を、われわれは常に厳密に保持しつつある。人は言うかもしれない、時代は変貌しつつあると。それは正しい。したがって、われわれは新しい時代と条件が喚起しつつある変わりゆく環境にわれわれ自身をならし、一方、正しいコースを失わないために、最大限の適応性を示さなければならぬ。

イスラエル社会主義

(一九七二・一〇・二三)

前便で述べたマバムの大会が過日行なわれたが、それは好機だったと思われる。というのは、われわれの若者たちが六日戦争の戦場で悲劇的に直面した武器はソビエトのものであったが、そのソビエト社会主義の解釈に関して大会が下した明確な定義は、遂に若者たちにイデオロギー的満足を与えることができなからである。そのことについて非常に限られたものであるが、主な解釈に関する私の翻訳をお送りする。問題は社会主義一般であり、イスラエル社会主義の進路、およびそれに對するキブツの貢献である。

(1) 部分的な国有化や部分的な経済計画にもかかわらず、資本主義国家はその内部的過失と矛盾とから解放されることはできない。

それは内部の社会的ギャップも、また先進国と後進国間のギャップも除去しえない。(2) 社会主義の目的のひとつは、人類を政治的植民地主義の墓場および経済的な新植民地主義から解放することである。(3) 社会主義は国有化、民主主義、自由および平等の包摂を意味するものである。

(4) それぞれの国家の特殊な条件に応じて、社会主義への進路も多様である。

(5) マバムは次のように規定する。社会主義体制は正義・人種・言論の自由・社会主義への多様なあり方のための批判とたたかひの自由、および政治的多元主義の原理に必ず組織の自由に基づかねばならない。

(6) マバムはみずからをシオニスト的——社会主義的——マルクスの独立政党と考えるソビエトのやり方はひとつの見本としては、全然われわれには役立たないものである。

(7) 開拓者や労働者たちの過去および現在における指導権によって、イスラエルの社会主義には、よりよい前進のための特別な基盤が存在する。すなわち、国土の九二％は国有であり、それがまた国法でも規定されているという事実。水を含めて自然の原産物は政府の所有であること、航空および大

キブツに対する攻撃

このたびは、キブツの分野にあってはなんらの特別なニュースはない。せいぜいお伝えできるのは、最近協同組合や協同体の合法的合併へ向けての第一歩がふみ出されたことである。正確には昨日われわれのクネセット(国会)は、最初のレクチャーにおいて労働省によって説明せられたモシヤウ法を採択した。キブツ法もその順番がくるのを待っている。

最近、イスラエルの資本主義新聞「ハアレツ」は社説でキブツを攻撃し、キブツの生活と風俗が現代のテクノロジーによっていかに「同化せられ」たかを示そうと試みている。彼らは何人かのキブツニックにインタビューして、われわれの実際の内部状況を「嗅ぎつけ」ようと、そのキブツニックたちの意見をひき出したが、それは彼らの談話の真意や総意でもないものを提示している。

キブツ運動に対するもうひとつの野卑で侮辱的な攻撃は、テレビ討論中にひとりのジャーナリストによって浴びせられたものである。イスラエル内の多くのプロパガンダによって、われわれの立場は不利にされてきてい

る。われわれ自体、キブツニックは非常に強力であるから、こうした「敵の攻撃」で傷つけられたとは感じない。それにもかかわらず、キブツ運動内の現下の状況は、それら責任ある者の宣伝によって広範に、また深刻にあらわれている。

(一九七二・一・二六)
(ヤアコブ・アラジ氏はキブツ・ダンのメンバーで、草刈氏の友人である。)

(告) 月刊しゃろむ

東北を中心としてキブツの研究と紹介をおこなっているキブツ懇話会の機関紙

発行——キブツ懇話会
秋田市土崎港3丁目10の10
振替口座・秋田五〇八九
紙代(郵送料共)一年分六〇〇円

(9) 協同体としてのキブツの進路は、団結・平等・社会経済的民主主義・労働の平等価値・集団的相互保障の基礎の上に、農業的・工業的経営の創造について多くの力量を示してきている。

(一九七二・一一・八)